

## 目標達成計画

目標達成計画は、自己評価及び外部評価結果をもとに職員一同で次のステップへ向けて取り組む目標について話し合います。目標が一つも無かったり、逆に目標をたくさん掲げすぎて課題が焦点化できなくならないよう、事業所の現在のレベルに合わせた目標水準を考えながら、優先して取り組む具体的な計画を記入します。

【目標達成計画】					
優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	6	『高齢者虐待防止』や『身体的拘束』については、職員全員が悪い事と思っている。しかし、本当に入居者様と関わる時に、入居者様主体で頭と体が動いているどうか？つい自身で作り出した忙しさに、職員主体となり、間違ったコミュニケーションを行っていないだろうか？毎年の研修ではこの事を全員で確認するが、「つい」、「わかっているけど、」等々に続き、「待つて！」「だめ(危ない)」と言ってしまふ。自己反省が聞かれる。	理解した事は行動に現れる。行動が伴わない事は、どこかで自己弁護や習ったことに素直に同意していない事が考えられる。折に触れこの事を職員間で話し合い、決められたことは全員が実施、出来ていない場合には共に働く職員同士で指摘し合いより良い環境を目指す。新しい職員が来た時も既存職員の働きかけを見聞する事で、徐々に環境適応できるようにする。	身体拘束等適正化委員会において、定期的に社内研修を行う。言葉のかけ方を職員同士で考え事例集を作成、検討・見直しをする。その結果を月1回の職員会議で発表する。この繰り返し続ける事により、スピーチロックしないコミュニケーションが、徐々に普通の事になるようにする。	12ヶ月
2	38 39	BCP策定は法人主導で形として作成済。去年2024年元旦の大地震は、幸い施設は被害は少なかったが、能登半島では想像以上の被害で今でも完全復旧出来ていない。同様の事が起こったら私達は動けるのか？職員全員が自身にお任せくださいと言えるのか？	災害時は、グループホームで働く私達が、入居者様と私達のために、出来るだけ早い段階で安全確認し生活できるようにする。また、外的援助が必要な場合は援助の手が届くまで、入居者様が安心できる関わり方を常に心がけ、全員で安全に生活できるようにする。	BCPマニュアルは作成済ではあるが、常に年に1度は、被害に遭われた方々からのアドバイスや新たに出て来る災害用品などをチェックしながら備品について見直しや追加をし、マニュアルについても私達が実際に動けるものになっているかの検討・討議・再作成を繰り返していく。	12ヶ月 ただし、BCP対策は永久
3					ヶ月
4					ヶ月
5					ヶ月

注)項目の欄については、自己評価項目のNo.を記入して下さい。項目数が足りない場合は、行を挿入して下さい。